**「PGSAS統計キット」について**

胃切除後のQOL向上を目指して各施設で再建法や手術手技の工夫が行われており、とくに噴門側胃切除術や幽門保存胃切除術などの機能温存手術では、再建法や手術手技の違いにより術後のQOLにかなりの施設間差がみられることが明らかになってきた。（PGSAS統計キット図PDF参照）

そこで各施設で行われている術式が術後のQOL向上にどれくらい役立っているかを判断する基準をつくる必要性を感じ、PGSASスタディで集めた全国データと各施設の術式データを統計学的に比較できる「PGSAS統計キット」を早稲田大学文学学術院 小塩真司教授の監修により作成した。

「PGSAS統計キット」で算出される効果量「Cohen's *d*」を用いると単に統計学的に有意であるかどうかだけでなく、どれくらいすぐれているかを数値化して（＝効果量）判断することができるため、すぐれた術式を見出しその普及を促す上で有効な手段になると考える。

術式を評価する基準を提供することですぐれた術式を「見える化」することができ、術式の改良を加速化することが期待される。